

秋吉台

— 美祢市自然保護協会だより —

広報 第 7 号

発行日：2014 年 3 月 1 日
発行者：美祢市自然保護協会
美祢市立秋吉台科学博物館内
TEL:0837-62-0640

秋吉台憲章

- 秋吉台の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 秋吉台の自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 秋吉台の自然を正しく利用し、人との共生をはかろう。
- 秋吉台の自然を守るために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 秋吉台の自然、景観、歴史・文化を後世に末永く継承しよう。



ベニヤマトケ

カルスト台地秋吉台の地質学的意義と魅力

秋吉台は、古生代後期（今から約 3 億 6 千万年～2 億 5 千万年前）にサンゴ礁として誕生したわが国最大の石灰岩台地で、カルスト地形を形成しています。そのため秋吉石灰岩の中には当時サンゴ礁を造っていたフズリナ、サンゴ、ウミユリなどの生物が化石となって豊富に含まれています。

大正 12 年、小沢儀明博士は石灰岩に含まれている化石の研究から、秋吉石灰岩は逆転していることを発見しました。以来、秋吉台は日本における重要な地質学および古生物学研究地として広く知られるようになり、多くの研究者の訪れる所となりました。

昭和 31 年、このような秋吉台を爆撃演習地として使用したいとの申し入れが米軍からありました。これに対して、学術的価値の高い秋吉台を破壊してはならないとして、猛烈な反対運動が起こりました。その結果、秋吉

台は爆撃演習地となることから解除されました。

これを一つの契機として、昭和 34 年に秋吉台科学博物館が開館し、昭和 39 年に地質学的に重要な地域は国の特別天然記念物に指定されました。そして昭和 44 年には、秋吉台およびその周辺の自然を守ることを目的として秋芳町自然保護協会が発足しました。

今日、秋吉台は日本列島の成り立ちを解明するうえでの重要な研究地となっており、博物館の学芸員はもちろんのこと、多くの研究者によって地質学的研究が行われています。また、東の台は国定公園に指定され、各種の施設もあることから、毎年多くの修学旅行生、自然愛好家、地学専攻の大学生、そして自然に触れたい多くの観光客の訪れる所となっています。

このようにみえてくると、秋吉台は絶好の地質研究地であり、地質見学地であり、そして学術観光地でもあるといえるでしょう。私たちは学術的価値の高い秋吉台の自然をこれからも守って行かなければならないと思います。

秋吉台科学博物館 元館長
美祢市文化財保護審議会 委員 杉村 昭弘

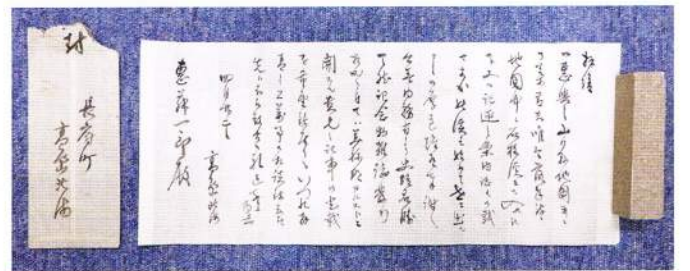
高島北海 と 秋吉台科学博物館 初代館長 惠藤一郎

明治から大正にかけて画家として大成した萩出身の高島北海は、若くして(23 歳)工務省出仕として生野鉦山にあり、フランス人技師から地質学を学び、また、農務省所属としてフランスに留学、植物や林学を修めた。『山口県地質分色図』などは、日本初の地質地図である。大正 9 年 70 歳になり、故郷山口県の長門峡、石柱溪、青海島、須佐、秋芳洞などを探査し、国の名勝に指定されるように奔走する。秋吉広谷集落の記録帳には「大正十年九月二十七日 北海一行五名穴二入ル 松明十二束九十六銭、荷造り料含め一円五十銭」とある。明治末から何度か瀧穴に入洞したようである。鹿取館発行の絵葉書の袋には北海筆の「秋芳洞口」の絵が印刷されている。

この頃、惠藤一郎氏（後に秋吉台科学博物館初代館長）は、東大教授神保小虎博士の依頼で、秋吉台周辺の鍾乳洞の調査に没頭していた。この成果は、大正 11 年には秋芳洞・景清洞、その次の年には大正洞・中尾洞が天然

記念物指定になっている。二人はこの頃相通じ親交が深まったと思われる。大正 10 年に大正洞が発見されるが、この命名に際して「北海に相談した」と述べている。また、北海の惠藤氏宛の手紙が見つかったが、互いに資料の遣り取りがあったことが窺われる。また、昭和 3 年に内務省が発行した天然記念物に関する報告書に秋吉台・秋芳洞に関して惠藤の報告が掲載されているが、これを北海が推していたことが述べられている。

秋吉台科学博物館 特別専門員 藏本 隆博



昭和天皇と 秋芳洞・秋吉台

昭和天皇が、初めて秋芳洞に行啓されたのは、皇太子時代の1926年（大正15年）5月30日のことである。

当日は、前日からの雨模様で洞内は、水かさも増していた。殿下は、洞内からあふれる白滝の上を棧橋伝いに入洞された。黄金柱までの予定を黒谷（旧名地獄）まで延ばされ、ご機嫌麗しく探勝を終えられた。

当時は、「滝穴」と呼ばれていたが、殿下のご命名で「秋芳洞」と改称された。

命名の次第は、広谷バスセンター隣、温水池畔の記念碑碑文に銘刻されている。（写真下右：山口県知事 大森吉五郎撰 山口県立教育博物館長 佐久間久吉書）

2回目は、1963年（昭和38年）第18回山口県国体の時である。

秋吉台周辺は、山岳競技の会場になった。天皇・皇后両陛下は、10月28日台上で選手団が繰り広げる公開演技をご覧になった後、エレベーターで洞内に入られた。

黄金柱前に用意された顕微鏡をのぞかれ、秋吉台科学博物館学芸員庫本正氏の説明により、洞窟内動物の生態に興味深くご覧になった。

台上には、天皇が昭和39年のお歌初めにお詠みになった歌が、記念碑に彫まれている。（写真下左）

美祿市自然保護協会 会員 金石 弘士

生物いかに
ここに住む
洞穴もあかるくなれり



「秋芳の自然と歴史 —カルスト台地と暮らし—」

—— 解説書編集にあたって

秋芳地域の大地は、カルスト台地が大半を占めています。この台地は、私たちの誇る美しい自然であるとともに学術上貴重な財産であるため、特別天然記念物として「秋吉台」「秋芳洞」が保護されています。私たちの暮らしは、秋吉台の自然と深くかかわってきた歴史があり、低地のポリエは生活の舞台、弁天池をはじめ湧水は、弥生時代から農耕に利用されてきました。また、カルスト台地は地下資源や観光資源としても利用され、地域の発展に生かされてきました。

秋芳の自然のすばらしさ、先人たちがこの自然と深くかかわって暮らしてきた歴史、民俗に関し訪ねてみたいスポットの解説書として、このたび「カルスト台地と暮らし」を発刊することになりました。今まで紹介されていなかった歴史・民俗についても「ふるさと再発見」の意味で原稿を書いています。

美祿市自然保護協会は、この解説書を会員に配布し、ふるさと秋芳の自然や歴史・民俗に関心を持っていただく資料として活用されることを念願し、現在編集作業に取り組んでいます。

美祿市自然保護協会 会長 河本 芳久

平成25年度 <自然保護啓発作品展> 習字・ポスターコンクール入選者作品巡回



平成25年11月（秋吉公民館）



平成25年12月（大田公民館）



平成26年1月（美祿市民会館）

俳句

秋芳野火句会

やはらかな光鋸き込む春田かな

重富 八重

山寺の聖地に光る寒牡丹

岡崎 愛泉

ホトトギス秋芳句会

カルストの夜空を焦がす野火の帯

末永よね子

まなこまで落ち着きのなきうかれ猫

山中 佳子

平成26年度

美祿市自然保護協会 会員募集

年会費 個人 一口 300円

皆で美祿市の自然を守りましょう。

お申し込みは秋吉台科学博物館内

TEL(0837)62-0640 まで